

## 研修レポート

受講者番号	氏名	所属
10-1	原田 達意	鹿屋体育大学学術図書情報課図書管理係
10-2	山下 智久	鹿屋体育大学学術図書情報課図書サービス係

### 1 発表資料の状況

次期図書館システムが NTT データ Nalis システムときまり、機関リポジトリ機能を実現する基盤が導入されることになったことから、今回の研修内容を踏まえ、学内の図書情報専門委員会にて各委員への説明をおこなった。

### 2 発表内容

学術機関リポジトリの定義

学術機関リポジトリの特徴

コンテンツ公開の流れのイメージ

学内での検討事項確認：規則整備

学内の研究成果物リスト：登録対象となりうる候補

\*以上、研修会でのアドバイスをうけ、説明をシンプルなものにした。

### 3 プレゼンの概要

図書情報専門委員会 平成 19 年 10 月 29 日（月） 16：00－16：40

委員長 図書館長 委員 教員 7 名 事務局 3 名

説明者 山下

発表は図書情報専門委員会の報告事項として行い、発表および質疑応答あわせて 5 分程度の予定で実施し、とくに質問はなく説明をメインとしたものになった。

### 4 プレゼンの反響

図書情報専門委員会では、とくに意見が出されることはなかったが、学術研究成果物を本学から離れ別の研究機関にうつられた場合も保存、無料公開ができるという説明には関心を持つ委員が何名か見られた。

上部の学内常任委員会である学術情報・産学連携委員会（委員長：学長）には、図書情報専門委員会委員長である図書館長より専門委員会報告の一部として学術機関リポジトリが説明された。この委員会では、「主旨はよくわかるが、原則、なかば強制的に公開するとなると、共同研究や委託研究など関係機関との調整が必要で公開できないものもあるのだが・・・」といった意見も出た。館長より公開できるものから徐々に蓄積公開していくという現段階での方針、今後、取扱い規程など規則整備を行っていく旨の補足説明があり委員会での説明を終了した。

### 5 今後の予定

図書情報委員会にて、取扱い規程を作成する。システムリプレイスが 2008 年 2 月となるので当初予定どおり、まず大学の紀要を登録し、その後、学内各研究室へむけた収録コンテンツ拡大の説明会開催等を検討する。